



Activity

08 第13回 市民協働フェスティバル「まちカフェ!!」 寄付ってなあに?親子で体験してみよう!

2019年12月1日(日)
町田市役所2階市民協働おうえん広場

12月1日(日)町田市役所にて第13回市民協働フェスティバル「まちカフェ!!」が開催されました。「まちカフェ!!」は、町田市役所を会場に町田市内で活動するNPO法人や市民活動団体、地域活動団体などが集まるイベントです。本年度は、80以上の団体が出展し、来場者は全体で約9100名でした。

サポートオフィスは、12月は「寄付月間」(毎年12月の1ヶ月間、全国規模で行われる寄付の啓発キャンペーン)ということと「寄付ってなあに?親子で体験してみよう!」という内容で展示、アンケート、クイズ、ぬりえを実施。いずれの企画も参加賞として「サポートオフィスステッカー」と「寄付月間のピンバッジ」を用意。ぬりえとクイズ効果で小さなお子さんを連れたご家族にたくさん参加していただきました。

寄付アンケートのうち「どんな種類の寄付をしたことがありますか?」という質問では、災害支援(57件)、赤い羽根共同募金(51件)の次に個別の団体、NPO(48件)という回答が多くありました。コメントの中には、「クラウドファンディングで興味あるプロジェクトがあると寄付している」といった回答もあり、思った以上に多様な寄付体験があることがわかりました。「寄付をした理由」は、「社会の役に立ちたいと思ったから」(56件)が一番多かったですが、「自分が抱えている社会問題の解決に必要なから」(5件)という回答があったのも印象的でした。

町田にはたくさんのNPOや市民活動団体が活動しています。活動に参加する「ボランティア」だけでなく「寄付」も参加の方法です。自分の興味ある分野や解決したい社会問題に取り組んでいる団体を寄付で応援してみたいかご存知でしょうか?



当日展示内容のより詳しい内容は、サポートオフィスのホームページに掲載しています。



Now! | 町田市地域活動サポートオフィスの近況

地域でNPO・市民活動の果たす役割について知る、考えるセミナー

2019年11月15日(金)
@町田市役所おうえんルーム

本セミナーは、昨年度20周年を迎えた特定非営利活動促進法(通称NPO法)にこめられた理念をふりかえり、NPOや市民活動がこれからの地域で果たす役割について共有することを目的として開催したものです。

キックオフスピーチとして吉田建治氏(認定特定非営利活動法人日本NPOセンター事務局長)、町田市の事例報告として前島正光氏(NPO法人顧問建築家機構)、岡田栄氏(NPO法人CCCNET事務局長)にご登壇いただきました。



吉田氏からは、NPO法に書かれた理念に立ち返り、NPOとは何かについて説明して頂いた後、協働の定義や意義について実例も交えてお話いただきました。協働事業を通じて今まで見えていなかった各組織の専門性が発見されていく、そのためにも協働以前に対話が重要とのことでした。

町田市の事例報告では、実践から見えてきたNPO運営上の課題や行政とNPOの協働のあり方についてお話いただきました。政策をつくる段階から市民・NPOと行政が協働していくことが必要ではないかということや複数主体の協働がますます必要となるということが提示されました。

パネルディスカッションは、当法人大谷光雄司会のもと進行。主たる論点は、「NPOの強み」「NPOが地域で果たす役割」の二点でした。「NPOの強み」は、「NPOらしい課題解決の仕方として地域のいろいろな人を巻き込む、困りごとをわかちあったり、広げたりすること」、「自らの責任において自由に活動できる」、「横のつながりづくり」という点があげられました。

「NPOが地域で果たす役割」は、「地縁と違いテーマで専門性を発揮する」、「一人の『困った』というつづきを集めて、『これって社会課題ですね』と伝えていく」、「縦の糸は行政、横の糸はNPO。分野を超えてつながるのはNPOや市民活動団体のほうが長けている」、「行政と市民による行政運営のつなぎ役を果たせる」といった点があげられました。

市民活動の「自由さ」「専門性」「自発性」「多様性」が様々な組織・人とつながり地域で価値を発揮していくためにも「翻訳者」が必要。サポートオフィスにとって今後の課題をいただく貴重な場でもあったと感じています。





Report 10

町田動物愛護の会

人と犬・猫の共存のために様々な活動ネットワークを構築

町田動物愛護の会は、人と動物のより良い共生社会の実現を目指し、町田市保健所の協力を得て動物の適正な飼養とその知識を普及する活動をしています。具体的には「まちだ動物愛護フェスタ」「ひとと動物のふれあい絵画展」「わんわんクリーンキャンペーン」「町田わんにゃん譲渡会」「犬猫飼育に関する相談会」「まちカフェ!」などを通して私たちの目的である啓発活動を行っています。地域猫部も設立し飼いのない猫(のら猫)の問題に取り組み、地域住民・ボランティア・行政が協力し合い、暮らしやすい街づくりを推進しています。

団体からのメッセージ

「災害からあなたとペットを守るために」という冊子を作成しました。ペットと家族が災害を乗り越えるための準備と心得について一緒に考えるペットの災害対策セミナーを開催します。2020年3月8日(日)10~12時(町田市役所2階 無料)



団体プロフィール

名称 町田動物愛護の会
電話番号 090-1709-2321 (平日9:00~18:00)
会長 森本とも子

Report 11

NPO法人町田すまいの会

住まいの困りごと、お気軽にご相談ください!

すまいの会は1993年に行われた市の高齢社会総合計画のシンポジウムを機に、住宅改修(バリアフリー)にむけての専門家集団として、市民の側からの自発的取り組みとしてスタートしました。良いバリアフリーの計画を作るためには、建築、施工、福祉などそれぞれの専門家が、個々がなく一体となりネットワークを作り進めていくことが求められます。長年取り組まれてきた経験は、知識ではなく現場体験を経た知見となり、みなさんの中に蓄積されていました。2020年オリンピック・パラリンピックを控え、これから更にバリアフリー化が当たり前となっていくことが期待されます。

団体からのメッセージ

私たちは、市民皆が安全・安心・元気に暮らす為の住まいの困り事を解決するお手伝いをしています。NPOの認証を得る時に、建築士事務所を持つ法人として認可されました。気軽に何でもご相談ください。私たちが待ってまーす!



団体プロフィール

名称 NPO法人町田すまいの会
所在地 町田市旭町2-2-19 さつき荘
電話番号 042-788-2006
メール info@sumainokai.jp
代表 大宇根成子

Report 12

つるかわ無料塾 結い

一人ひとりの子どもに寄り添った学習支援を実施中!

結いは2018年1月からスタート。毎週水曜日夜、隔週土曜日昼間に能ヶ谷町いこい会館、和光大学ポブリホール鶴川の会議室、柿の木文庫等で無料塾を開催しています。対象は中学生で12名が通っており、高校生・大学生・社会人のボランティア講師が指導にあたっています。代表の福田さんから出たキーワード「えんびつ一本からのデモクラシー」という言葉が大変印象的でした。継続的な活動をするためには拠点が課題とのこと。子供の学びや生活を支える市民の活動をどう支え広げていくか、さまざまな連携がより必要だと感じました。

団体からのメッセージ

家でも学校でもないサードプレイスとして、学習支援をベースに子どもたちがほっと一息つける場所を目指して運営しています。大学生サポーター講師を募集中です。おいしいおにぎりとお味噌汁がもれなくついできます!



団体プロフィール

名称 つるかわ無料塾 結い
所在地 小田急線鶴川駅近隣の施設にて運営
電話番号 080-4198-2619
塾長 福田有美子



今回紹介したセミナー以外にもこれまでに開催したイベントのレポートもホームページに掲載しています。ご関心のある方はそちらもチェックしてください!



Activity 07

ボランティアが活躍する活動づくり基礎講座

2019年10月30日(水)
町田市民文芸館こぼとらんど

POINT! ボランティアを「コントロールする」のではなく、ボランティアの関与を「促進(ファシリテート)する」

ボランティアが活躍する活動づくり基礎講座

講師:東樹康雅氏(認定NPO法人藤沢市民活動推進機構・藤沢市民活動推進センター センター長)

はじめに、ボランティアは、Volo(ヴォロ)「自ら進んで~する」の意味より発生した言葉で、ボランティア活動とは「わたし発」のものであること。ボランティアスタッフは、「あなたの団体が目指す社会の実現に何らかの力を提供してもらえる存在」という基本的な考えについてお話いただきました。ボランティアが活躍するためには、多くの方が関わることで「しくみ」づくりが大切ということで具体的なしくみづくりのポイントとして次の7点を解説していただきました。1)プログラム(理念・目的・方針等)、2)参加メニューの準備(参加するまでのクッションの機会の創出)、3)体制づくり(ボランティア担当者を置くことは特に重要!)、4)リスク管理(誓約書、入会届など)、5)予算計上、6)募集・採用、7)目標と評価。

東樹氏から紹介されたアメリカのボランティアマネジメント分野の第一人者スーザン・J・エリス氏の「ボランティアをコントロールするのではなく、ボランティアの関与を促進(ファシリテート)する」という言葉。人々の自発性を促進することがやはり「市民活動」の肝だと再確認しました。

- 多くの方が関わることで「しくみ」づくりを!
1. プログラムづくり
 - なぜ、ボランティアが必要ですか?またそれを共有していますか?(目的)
 - どのようなボランティアの参加を求めていますか?(対象)
 - ボランティアをどのように募集していきますか?(方針)
 - 誰が担当し、どのように運営していきますか?(運営体制)
 2. 参加メニューの準備
 - 業務の整理をしていますか?
 - 参加できるメニューが明確になっていますか?
 - 参加するまでの「クッション」の機会を設けていますか?
 3. 体制づくり
 - 組織内部への周知や理解を促す機会を設けていますか?
 - 担当者および、担当者を支える役割の方を確保していますか?
 - 感謝する機会を設けていますか?
 4. リスク管理
 - 受け入れ方針をボランティア希望者にお伝えする機会を設けていますか?
 - 「誓約書」や「入会届」等を用意していますか?(保険加入の確認も)
 - 研修の機会を設けていますか?

学生の力を活かした活動づくりそのコツとヒミツ

講師:高城芳之氏(NPO法人アクションポート横浜代表理事)

横浜で「NPOインターンシップ」を運営し、これまでに500名以上の若者とNPOをつないできた経験から「学生の参加で活動が活性化」すること。具体的には、「若者の参加で、子どもや30代の若者が増えた」、「巻き込み力の強化剤になる」「人や組織をつなげる「接着剤」になる」「活動の成長促進剤になる」という点について事例を交えてご紹介いただきました。その後、学生を巻き込むコツとして「ウェルカムプロジェクトを作ろう!」「1日ボランティア体験などの気軽に参加しやすい場を作る」といったポイントを解説していただきました。高城氏はこれまでの経験を「学生が活躍するNPOインターンシップの教科書」としてまとめています。



お問い合わせ

NPO法人アクションポート横浜
info@actionport-yokohama.org
製本:A4 カラー 40ページ
価格:1,500円(税込)

※ご購入時は別途1冊につき送料・手数料200円がかかります。
※この冊子は公益財団法人トヨタ財団の支援で作成しました。

- 参加者アンケート**
- 普段やっていることの確認をさせていただきできていないことも明確になりました。
 - 参加者同士の話し合いが充実していました。
 - 最前線で活躍されているお二人のお話は大変勉強になりました。

